

平成31／令和元年度

弘前大学男女共同参画推進室 事業報告書



弘前大学男女共同参画推進室事業報告書

目次

ごあいさつ	2
弘前大学の男女共同参画の現状	5
実施体制	7
実施事業の内容と成果	
1. 環境整備	
子育て・介護中の研究者への研究支援員配置	8
託児利用料補助（学会参加時、休日勤務時、病児・病後児）	8
女性研究者懇談会	8
内閣府「『輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会』行動宣言」賛同、 弘前市女性活躍推進企業認定	9
2. 女性研究者採用・理系女子裾野拡大	
女性研究者の応募・採用促進（スタートアップ経費支援、面接時交通費支援）	10
ダイバーシティレポート制度	10
プロモーションメンター制度	10
女性研究者を研究代表者とする共同研究支援	10
女子学生による理系女子進路相談会	11
児童生徒を対象とした実験教室	11
女性研究者パネル・ポスター展	13
3. 意識啓発・情報発信など	
男女共同参画トップセミナー（男女共同参画推進室10周年記念シンポジウム）	14
北東北国立3大学連携推進会議男女共同参画シンポジウム	14
さんかくカフェ	15
学生を対象とした意識啓発	15
次世代育成サポーター養成講座への学生派遣	16
「大学等における男女共同参画推進セミナー」等への職員派遣	16
あおり女性活躍推進協議会	17
弘前市女性活躍推進異業種交流会	17
ホームページ、男女共同参画推進室ニュースレター	18
男女共同参画推進室10周年記念フォトキャンペーン、ニュースレター特別号	19
資料1 平成31/令和元年度 主な事業・会議一覧	20
資料2 平成21年度～平成31/令和元年度 主な取組一覧	21
資料3 平成21年度～平成31/令和元年度 室長・室員等一覧	25

ごあいさつ



国立大学法人 弘前大学 学長
佐藤 敬

令和元年夏に、弘前大学男女共同参画推進室が個人的スローガンをまとめて、情報冊子「さんかくつうしん」や大学ホームページなどに掲載した際に、私は「みんな共同参画」と書きました。男女共同参画にとどまらず、社会全体として多様性に対応した在り方を目指すことが重要であり、中でも高等教育機関はその先頭に立つ努力が求められると認識しています。最近では、少子高齢化や労働力不足などの社会的要因を背景に、女性の活躍を推進すべきであるとの声も聞かれます。そのことには一理あるものの、本来は、男女共同参画はそのような価値観を超えた社会の大前提であると考えべきです。すべての人々が可能な限り同等に参画できることを目指した上で、社会が成り立っていかなければならないのだと思います。

弘前大学においても、男女共同参画推進の成果が以前に比べると挙がっていると言ってよいかと思いますが、まだまだ発展途上であり、真の多様性の実現にはほど遠い状況にあることに忸怩たる思いを抱いています。当面は男女共同参画の実績を積み上げ、できるだけ社会を先導していくと共に、まずは学内で「みんな共同参画」の意識の浸透を図っていくことが現実的だと思いますが、その次の段階に至る過程が見えていないことを認めなければなりません。私自身はこの課題に解決策を得ることなく、弘前大学での役目を終えることになりましたが、今後は学外でも同様の努力を続けると共に、弘前大学にも声援を送りたいと思います。これからも弘前大学が、そして社会全体が「みんな共同参画」への道のりを着実に歩んでいくよう期待すると共に、これまでの歩みが決してとどまることのないよう強く願っています。



理事（社会連携担当）
石川 隆 洋

令和元年度、弘前大学男女共同参画推進室は、10周年を迎えました。この間、本学では、学長のリーダーシップの下、性別にかかわらず学びやすく働きやすい研究環境の実現に向けた取組を行ってきました。特に、平成28年度から岩手大学等と共同実施している文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」事業の中間総括では、高い評価をいただきました。女性限定公募をはじめ、弘前大学男女共同参画推進基金による女性教員基盤整備等スタートアップ経費支援や面接時交通費支援、ダイバーシティレポート制度やプロモーションメンター制度の実施、男女共同参画トップセミナーや研究リーダー力向上支援セミナーのほか、大学連携によるシンポジウムの開催など、男女共同参画推進に向けた様々な取組を実施しました。これら取組は、女性教員比率等のジェンダーバランスの改善や、女性限定公募の浸透・ダイバーシティレポート制度の本格導入・託児利用料補助制度の定着など、男女共同参画推進のためのシステム構築に寄与したものであると思います。

令和2年度は、男女共同参画のさらなる推進を図るため、弘前大学の第3期中期目標・中期計画（平成28年度～33年度）に掲げた女性教員の採用・在職比率及び上位職への女性登用に係る目標達成に向け、教員公募時の女性応募者増加に向けた積極的なリクルート活動を促進するための新たな制度を導入するとともに、女性教員の産前産後休暇・育児休暇取得時及び男性教職員の育児・介護休暇・休業取得時の支援のあり方を検討していきます。

今後ともワーク・ライフ・バランスに配慮した環境整備や各種支援対策、ジェンダーバランス改善等の取組により、男女共同参画を推進して参りますので、学内外の皆様のご理解とご協力をお願いします。



男女共同参画推進室長
藤 崎 浩 幸

2009年10月1日に男女共同参画推進室が発足し本年で10周年を迎えました。この10年間で弘前大学における役員等の女性比率は0%から14.7%へ、女性教員比率は12.1%から19.3%へと向上しました。女性研究者を増やし上位職登用を促進するためポジティブ・アクションに取り組み、ワーク・ライフ・バランス実現に向けた各種制度を拡充し、学内外への情報発信にも努めてまいりました。

こうした中、2019年度の注目すべき事項として、まずダイバーシティレポート制度の本格実施があります。教員選考過程での無意識のバイアスを排除するためのもので、学外からの注目度が大変高い制度です。2つ目には「弘前市女性活躍推進企業」認定を受けたことが契機で、弘前市と連携した活動を行ったことです。認定証を受領する際の櫻田弘前市長の勧誘により、佐藤学長が内閣府の「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言の賛同者に加わりました。当室10周年記念シンポジウムを、弘前市男女共同参画推進20周年記念と合わせて開催いたしました。弘前市において内閣府主催「Let's be a STEM Girl!! ~地域から未来の理工系女子を~」が開催される際に、実験教室に本学教員が講師として参加しました。3つ目として、2016年度に本学も参画し岩手大学を代表機関として採択された文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現で北東北の未来を先導」において、自主財源での運営を求められる後半3年間に突入し、事業規模が縮減したものの前半3年間の勢いを保っていることです。4つ目にフォトキャンペーン「私の男女共同参画宣言」も実施しました。

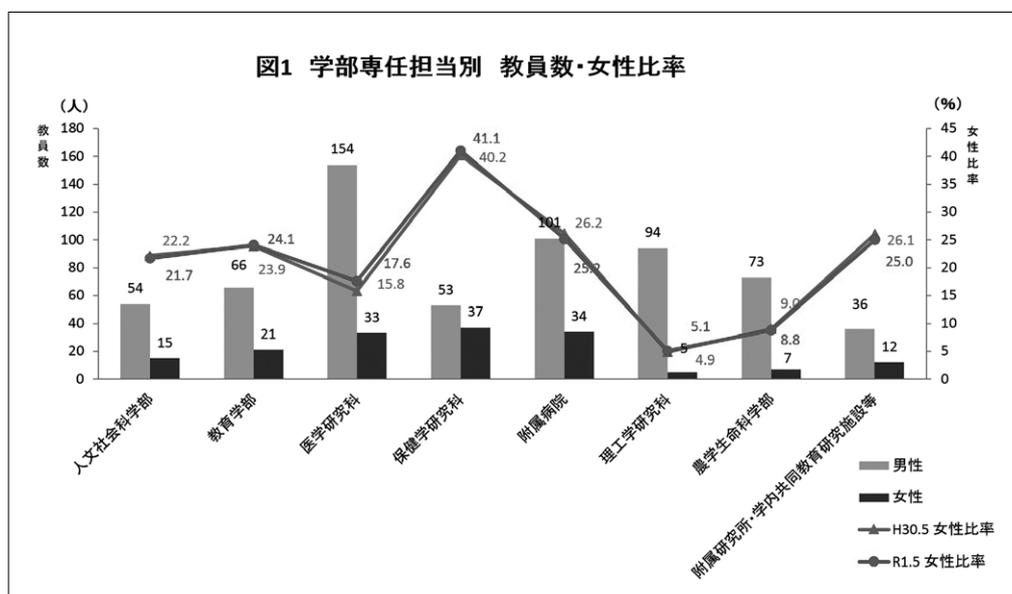
とはいえ、すべての人が働きやすく学びやすい弘前大学の実現には、女性教員採用比率が低いことを筆頭に、まだまだ多くの課題を抱えています。当室設立10周年という節目の年に、令和の開始と同時に4代目を拝命した初の男性室長として、これまでの歩みを継承し発展させて参りたいと考えていますので、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

弘前大学の男女共同参画の現状

2019年5月1日現在の本学教職員総数は1,978名（他に学長・理事・監事等）で、そのうち女性は947名（47.9%）である。大学教員（助手を含む）は795名、うち女性は164名（20.6%）、附属学校園教員は95名、うち女性は48名（50.5%）である。事務職員・技術職員等（医学部附属病院を除く）は281名、うち女性は91名（32.4%）、医学部附属病院の事務職員・技術職員等は810名、うち女性644名（79.5%）である。

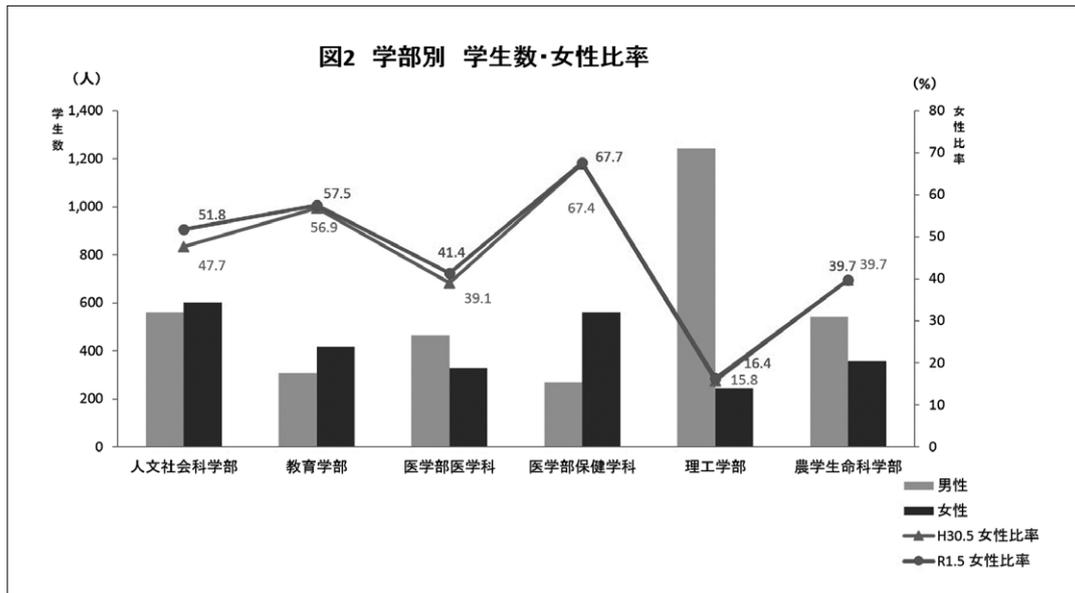
2018年5月1日時点と比較すると、大学教員で女性比率が0.3%、事務職員・技術職員等（医学部附属病院を除く）は0.7%増加し、附属学校園教員と附属病院の事務職員・技術職員等はそれぞれ1.0%、0.2%減少した。さらに、管理職に占める女性比率は、役員（非常勤除く）16.7%、事務系職員22.2%である。

大学教員における女性比率を昨年度と比較し、増加したのは教育学部（+0.2%）、医学研究科（+1.8%）、保健学研究科（+0.9%）、理工学研究科（+0.2%）であった。人文社会科学研究科は0.5%、附属病院は1.0%、農学生命科学部は0.2%、附属研究所・学内共同教育研究施設等は1.1%減少した。教員全体でみると、女性比率20.6%で、昨年度より0.3%増加した。



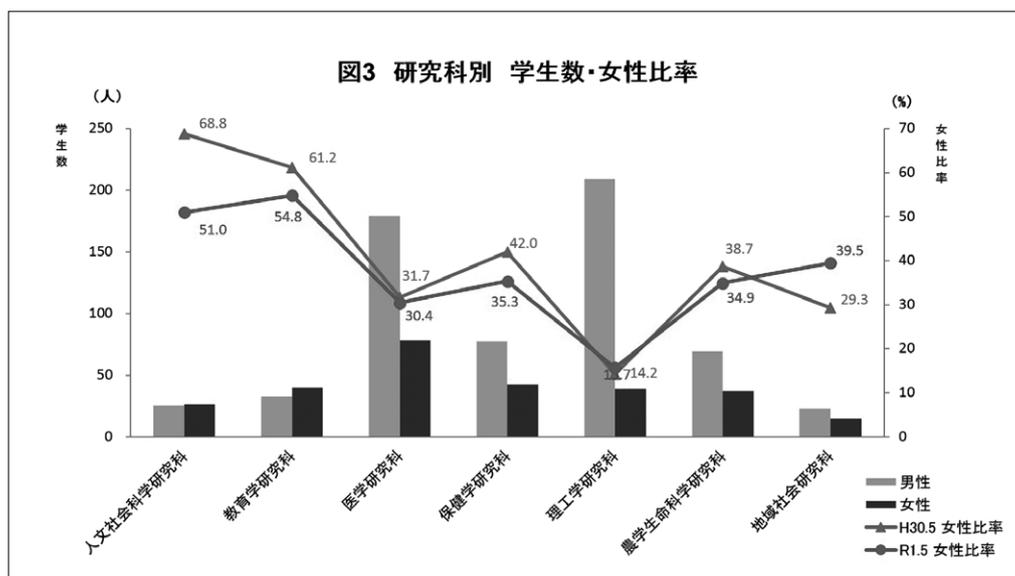
学部学生の総数5,898名のうち女性は2,510名（42.6%）である。学部ごとにみると、女性比率の高い順に、医学部保健学科562名（67.7%）、教育学部417名（57.5%）、人文社会科学部602名（51.8%）、医学部医学科328名（41.4%）、農学生命科学部358名（39.7%）、理工学部244名（16.4%）となる。

昨年度と比較すると、女性比率は全体で1.0%増加した。学部ごとでは、人文社会科学部（+4.1%）、医学部医学科（+2.3%）、教育学部と理工学部（+0.6%）、医学部保健学科（+0.3%）で増加し、農学生命科学部は増減がなかった。



大学院生の総数は892名、そのうち女性は277名（31.5%）である。学部学生に比べて女性比率は低い。研究科ごとにみると、女性比率の高い順に、教育学研究科40名（54.8%）、人文社会科学研究科26名（51.0%）、地域社会研究科15名（39.5%）、保健学研究科42名（35.3%）、農学生命科学研究科37名（34.9%）、医学研究科78名（30.4%）、理工学研究科39名（15.7%）となる。

昨年度と比較すると、女性比率は全体で2.5%減少した。研究科ごとでは、理工学研究科（+1.5%）、地域社会研究科（+10.2%）で増加し、人文社会科学研究科（-17.8%）、教育学研究科（-6.4%）、医学研究科（-1.3%）、保健学研究科（-6.7%）、農学生命科学研究科（-3.8%）で減少した。

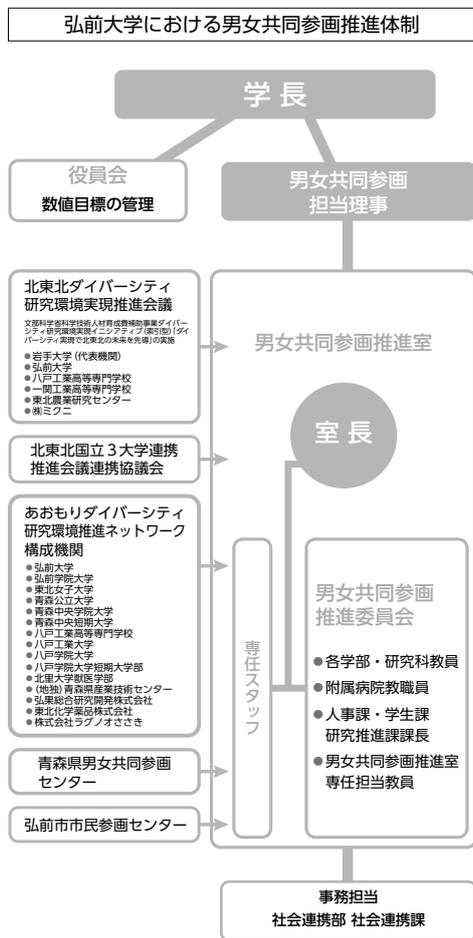


実施体制

役員会が重要事項を審議・決定し、男女共同参画推進室長が委員長を務める男女共同参画推進委員会が具体的な事業を企画・審議した。平成31/令和元年度は室長が交代し、弘前大学では初めて、男性が男女共同参画室長を務めた。男女共同参画推進委員会は、各学部・研究科、医学部附属病院、総務部、総務部人事課、学務部学生課、研究推進部研究推進課の21名の室員から構成された（前年度は20名）。男女共同参画推進室は、学長直属の組織として弘前大学管理運営規則に定められ、専任担当教員と事務補佐員（社会連携部社会連携課）を置き、各種事業を実施した。

以上の学内の実施体制に加えて、引き続き、岩手大学を代表機関とする文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の実施組織である北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議、同会議運営委員会に参加した。

また、平成29年度に本学が中心となり発足した「あおりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク」（青森県内15機関で構成）を維持したが、今年度は年次会議を開催できなかった。



平成31/令和元年度 男女共同参画推進委員会 名簿

役職等	氏名	所属等
室長	安川 あけみ	教育学部教授（～4月30日）
	藤崎 浩幸	農学生命科学部教授 （5月1日～、4月30日まで副室長）
副室長	北宮 千秋	保健学研究科教授（5月1日～）
	三浦 新	総務部長
室員	亀谷 学	人文社会科学部講師
	新谷 ますみ	教育学部准教授
	浅野 クリスタ	医学研究科教授
	金澤 佐知子	医学部附属病院副薬剤部長
	銭谷 勉	理工学研究科教授
	中島 晶	農学生命科学部教授（6月1日～）
	山下 梓	男女共同参画推進室助教
	庄司 聡	総務部人事課長
	橋本 美佐子	学務部学生課長（～11月25日）
	飯田 有知子	学務部学生課長（11月25日～）
	佐々木 健一	研究推進部研究推進課長
	大倉 邦夫	人文社会科学部准教授
	松本 大	教育学部准教授
	藤井 穂高	医学研究科教授
	斉藤 まなぶ	医学研究科准教授
七島 直樹	保健学研究科講師	
堀江 香代	保健学研究科助教	
成田 明子	理工学研究科准教授	
笹部 美知子	農学生命科学部准教授	

実施事業の内容と成果

1. 環境整備

○子育て・介護中の研究者への研究支援員配置

平成24年度から、ライフイベント（出産・育児・介護）により研究活動やワーク・ライフ・バランスの維持が極めて困難な研究者を支援する目的から、研究支援員（本学学生）を配置している。これまでに本制度の支援を受けた研究者は、論文発表や学会発表、科学研究費助成事業の採択等の成果を上げてきた。

平成31/令和元年度は、人文社会科学部、保健学研究科、医学部附属病院、理工学研究科の教員6名に対して10名の研究支援員を約853時間配置した。

支援期間：令和元年5月15日～令和2年3月31日

支援者：6名（子育て事由4、介護事由2）

○託児利用料補助（学会参加時、休日勤務時、病児・病後児）

円滑で効率的な業務とワーク・ライフ・バランス支援のため、本学研究者が学会参加時に託児サービスを利用する場合、それから、職員が休日に勤務を命じられたため託児サービスを利用する場合や業務のため病児・病後児保育施設を利用した場合の利用料補助を実施した。

7月には制度を拡充し、従来の病児・病後児保育と休日勤務時の託児利用料補助に加えて、延長保育や夜間保育利用の必要が生じる日帰り出張や、宿泊を伴う出張時の託児利用料も支援対象に含めた。

学会参加時の託児費用補助 実績

利用実績：4件（うち男性1件）

休日勤務時、病児・病後児の託児利用料補助 実績

利用実績：40件（うち男性15件）

○女性研究者懇談会

学長や担当理事、男女共同参画推進室長が女性研究者の声を直接聴き、今後の事業にいかしていくことを目的として、平成31/令和元年度も女性研究者懇談会を開催した。女性研究者11名のほか、佐藤敬学長、石川隆洋理事、藤崎浩幸男女共同参画推進室長等が参加した。介護・育児と業務の両立や女性の上位職登用等について情報・意見交換が行われた。

平成29年度から始めた本懇談会としては初めての本町地区での開催となった。

日時：令和2年2月26日 18時～19時

会場：弘前大学保健学研究科A棟
大会議室

参加者：17名（うち女性研究者11名、
学長・理事等3名、陪席3名）



○内閣府「『輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会』行動宣言」賛同、弘前市女性活躍推進企業認定

8月、佐藤敬学長が内閣府の支援する「輝く女性の活躍を加速するリーダーの会」行動宣言に賛同した。この宣言は、平成26年に首相官邸で開催された「輝く女性応援会議」を契機に、女性の活躍促進に取り組む企業の男性リーダーからなる「輝く女性の活躍を加速するリーダーの会」によって策定されたもので、佐藤学長の賛同は、北海道・東北の大学長としては初めて、青森県内では弘前市長に次いで2人目となった。賛同に際して佐藤学長は「高等教育機関のあるべき姿の一つは多様性であり、男女共同参画はその第一歩であると認識している。弘前大学においても、女性の活躍推進が当面の課題になっており、高い優先度をもって男女共同参画を推進し、さらなる多様性確保の道筋としなければならない」と述べた。

5月、弘前大学が「弘前市女性活躍推進企業」に認定された。この認定は、女性の職業生活における活躍を推進するために、弘前市が、女性の雇用環境の改善に向けた自主的な取組を実施している企業に対して行っているもので、弘前大学は44番目の認定事業者となった。

輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会



行動宣言

私たち男性リーダーは、様々な女性の意欲を高め、その持てる能力を最大限発揮できるよう、以下の取り組みを行うことをここに宣言します。

自ら行動し、発信する

- 私たちは、わが社の女性活躍に関する目標を設定し、達成に向けた取り組みを進め、その進捗状況を定期的に把握・公表し、取り組みを継続的に改善します。
- 私たちは、「女性の活躍が、わが社にとっていかに重要か」という想いを、自らの言葉で社会に発信します。
- 私たちは、組織に異なる視点をもたらすことがより良い価値を生むことを発信し、わが社の男性中堅リーダーの意識変革を進めます。
- 私たちが関与するあらゆる機会に女性が参加していることを確認し、その重要性を訴えていきます。

現状を打破する

- 私たちは、積極的に人材を発掘し、能力を開発し、登用することで、わが社の女性の活躍を支えていきます。そのため、あらゆる機会に、「なぜ、女性が一人もいないのか」「なぜ、女性が30%以上いないのか」「なぜ、男女がフィフティー・フィフティー(50:50)でないのか」を確認し、組織の意識変革を促します。
- 私たちは、これ以上柔軟な働き方ができないのかを確認することによって、女性の活躍を阻害する要因を取り除くとともに、男女の働き方の変革を進めます。
- 私たちは、女性がさまざまなライフイベントを経ながらキャリアを継続しているかデータで検証しながら、成長の機会を計画的に提供し、支援を続けます。
- 私たちは、わが社のサプライヤーやパートナー企業に対し、女性の活躍推進の重要性を伝えるとともに、女性の活躍推進に積極的に取り組むことを奨励し、支援していきます。

ネットワーキングを進める

- 私たちは、輝く女性の活躍を加速する男性リーダーのネットワークを広げ、成功事例を共有するとともに、輝く女性のネットワーク構築を支援し、連携していきます。

平成26年6月27日

弘前市女性活躍推進企業認定証

企業等の名称 国立大学法人弘前大学

代表者氏名 学長 佐藤 敬 殿

弘前市女性活躍推進企業認定制度実施要綱第3条第1項の規定により、弘前市女性活躍推進企業として認定します。

認定番号 第 44 号

認定期間 令和 元年 5月21日から
令和 3年 8月31日まで



わたしたちは
女性の
活躍推進に
取り組んでいます。

令和 元年 5月21日

弘前市長 櫻田 宏



弘前市認定

2. 女性研究者採用・理系女子裾野拡大

○女性研究者の応募・採用促進（スタートアップ経費支援、面接時交通費支援）

女性教員の応募・採用促進の取組としてこれまでに構築した女性教員基盤整備等スタートアップ経費支援、教員公募面接時の女性候補者への交通費支援を実施した。

女性教員採用促進事業（女性教員基盤整備等スタートアップ経費支援）は、弘前大学男女共同参画推進基金を財源とし、女性限定公募により新たに教員を採用した場合に研究環境の基盤整備等にかかるスタートアップ経費（女性教員1人につき50万円）を部局に対して支援することにより、女性教員の応募促進と採用・在職比率の向上を図るものである。昨年度まで、経費の配分先は女性教員のみであったが、本年度施行分から部局にも配分可能となるよう拡充された。平成31/令和元年度は、2学部2件の申請に対し支援を行った。

女性教員採用促進事業（面接時交通費支援）は、弘前大学男女共同参画推進基金を財源とし、教員公募面接時の女性候補者に対する交通費（上限額30万円）を支援するものである。平成31/令和元年度は、3学部・研究科からの申請に基づき3名の女性候補者について交通費を支援した。

○ダイバーシティレポート制度

ダイバーシティレポート制度は、すべての教員公募（女性限定公募を除く）を対象に、選考の各段階について男女共同参画の観点からレポートするもので、平成29年度に全学教員人事委員会で試行が了承された。レポート実施者は、公募実施部局が、ダイバーシティオフィサー（選考委員長等）またはダイバーシティオブザーバー（男女共同参画推進室長が任命する男女共同参画推進室員（性別・分野を問わない））から選択し、所定の様式に基づき、男女共同参画推進室長に報告する。また、選考委員長とレポート実施者は無意識の偏見に関する研修を受けることが義務化されている。

7月、全学教員人事委員会においてダイバーシティレポート制度の本格導入が決定した。平成31/令和元年度は、5学部・研究科・研究所から16件のレポートが提出された。

○プロモーションメンター制度

プロモーションメンター制度は、本学の女性研究者が教育・研究・管理運営等にかかる現状や課題等を相談できる体制を整備することにより、本学における女性研究者の上位職への登用促進を図ることを目的とするもので、平成29年度に男女共同参画推進委員会で試行が了承された。ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の女性研究者を研究代表者とする共同研究支援事業に代表者として採択された本学の教員を対象に、理事と所属する学部・研究科の長の2人がプロモーションメンターとして配置されるものである。プロモーションメンターは、教育、研究、管理運営等に係るマネジメント力向上に向けた助言を行うとともに、研究環境の現状を把握し、当該女性研究者が昇任または上位職に就くためのシステム改革を積極的に行う。平成31/令和元年度は、5名のメンティー（女性教員）を対象に、10件の面談が行われた。

○女性研究者を研究代表者とする共同研究支援

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の一環として、引き続き、本学の女性研究者が研究代表者、連携機関の研究者等が共同研究者として参加する共同研究を支援した。本事業は、本学を含む連携機関や北東北地域の女性研究者の研究力・リーダー力・マネジメント力の向上を図り、上位職登用の促進につなげるとともに、当該領域・分野の研究の深化に寄与することを目的とするものである。昨年度まではダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の補助金により実施したが、

本年度は、文部科学省の事業が補助対象外となったことから、弘前大学男女共同参画推進基金を原資として展開した。

平成31/令和元年度は6件の申請のうち、保健学研究科、農学生命科学部、地域戦略研究所の5名の研究代表者による研究を支援した。本事業による研究概要や成果は、岩手大学で開かれた北東北女性研究者研究・交流フェア2019（令和元年9月26日）や各研究者が所属する学会等で発表された。

支援期間：令和元年7月18日～令和2年3月31日

被支援者：代表者5名（うち新規1件）

○女子学生による理系女子進路相談会

理系女性の裾野拡大を図る目的から、オープンキャンパスにあわせて「女子学生による理系女子のための進路相談会」を実施した。理系進学を考えている女子高校生の進路に関する疑問や不安等について、各学部から推薦された教育学部、理工学部・研究科、農学生命科学部・研究科の女子学生・大学院生が相談に応じた。

来場者アンケート（回答者26名）では、全員が「参考になった」「まあまあ参考になった」と評価し、「弘大の理工学部に興味がわきました。進路のひとつになりそうです」「実際に通っている方に話を聞くことができ、とてもありがたかった。大学生活が想像しやすかったです」等の感想があった。

また、相談員として参加した学生からは「進路に悩んでいる高校生たちの手助けになれて嬉しかった。来年もぜひ参加したい」「他学部・他学科の方とお話しできたのでとても貴重な体験になった」との感想があり、協力学生に本事業に携わることで充実感が生まれたといえる。

日 時：令和元年8月8日 10～15時

会 場：弘前大学総合教育棟 ロビー・ホール

来 場 者：54名（女子高校生50名、保護者・女子児童4名）

協力学生：13名（教育学部2名、理工学部・研究科6名、農学生命科学部・研究科5名）



○児童生徒を対象とした実験教室

児童生徒を対象とした理系女子裾野拡大の取組として、女子小中学生を対象とした理科実験教室、実験教室を含むSTEM分野のイベント、女子高校生を対象とした科学イベントを支援した。

女子小学生対象理科実験教室「実験ガールズ2019～大学生の『センセイ』といっしょに楽しい3つの実験を体験しよう！～」

女子児童が理科実験の楽しさを経験することによって理系分野に関心を持つきっかけとなる場を提供し、理系女子の裾野拡大を図ることを目的として、青森市男女共同参画プラザ主催による女子小学生対象理科実験教室「実験ガールズ2019」に協力した。具体的には、実験教室の「センセイ」を務めることを希望した本学女子学生3名（「センセイ」公募時の応募者は14名）が講師を務め、「手作りペットボトルループで観察しよう（生物分野）」「空気砲で遊ぼう（物理分野）」「スーパーボールをつくってみよう（化学分野）」をテーマとした実験が行われた。当日は、男女共同参画推進室から貸し出した本学女性研究者の研究等に関するポスターが会場に展示された。

日 時：令和元年7月20日 10時～12時

会 場：青森市男女共同参画プラザ

参加者：40名（女子小学生25名、保護者15名）

Let's be a STEM Girl !! ～地域から未来の理系女子を～

次代を担う理工系女性人材の育成に向けて、科学技術や理工系分野に対する児童生徒の興味関心や理解を向上させる目的から、内閣府が実施した「Let's be a STEM Girl !! ～地域から未来の理工系女子を～」に弘前市が採択され、弘前大学が協力した。男女共同参画推進室が調整を担い、本学の鳥飼宏之准教授（理工学研究科）、城田農准教授（同研究科）、濱田茂樹准教授（農学生命科学部）による実験教室「シャボン玉で火を消そう」「走る、飛ぶ、登る液滴」「実感するでんぶんの成分と食感」が行われた。



日 時：令和元年9月1日 13時～16時

会 場：弘前文化センター

参加者：71名（女子児童生徒36名、保護者35名）

科学イベント「女子高生工学系キャリアサポート」

女子生徒が理科実験の楽しさを経験することによって理系分野に関心を持つきっかけとなる場を提供し、理系女子の裾野拡大を図ることを目的として、科学イベント「女子高生工学系キャリアサポート」（鳥飼宏之准教授（理工学研究科）主催、東北工学教育協会助成）に協賛した。

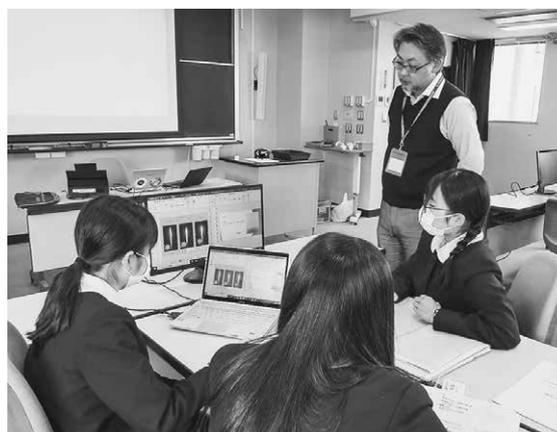
鳥飼宏之准教授が講師を務め、シャボン玉を用いた消火実験と新しい技術の創造をテーマにグループワークが行われた。

事業終了後に実施されたアンケートでは、「今回のキャリアサポート事業は楽しかったですか」という質問に対して62%が「大変楽しかった」、38%が「楽しかった」、「将来、エンジニアとして働くのも面白そうだと感じましたか」という質問に対して46%が「強く感じた」、38%が「感じた」、15%が「少し感じた」と評価した。「結果をただ受け入れるのではなく、なぜそうなるか考えるのは楽しかった。また、発明を試してみたのも楽しかった。工学は新しいモノを生み出すことができるし、それを人に使ってもらうことで人々を幸せにできると思った」「工学系への関心が高まったので、勉強に励み、弘前大学理工学部に入学できるように頑張ります」等の感想があった。

日にち：令和元年12月21日～22日

会 場：弘前大学理工学部校舎

参加者：31名（うち女子高校生26名）



○女性研究者パネル・ポスター展

総合文化祭、青森県男女共同参画センター（アピオあおもり）でのアピオあおもり秋まつりにおいて、弘前大学の女性研究者の研究を紹介するパネル・ポスター「弘前大学で活躍する女性研究者たち」を展示した。

学内外の多様な来場者に対して本学の女性研究者による研究や男女共同参画推進の取組について発信することができた。来場者からは「理系女子を育てる取組や女性活躍を大学として支援しているということが、今後の地域の発展にきっと役立つと思います」「感心する研究などを少し学べた気がしました」等の感想があった。



第19回弘前大学総合文化祭

日にち：令和元年10月26日～27日

会場：弘前大学創立50周年記念会館 ロビー

来場者：90名

アピオあおもり秋まつり

日時：令和元年11月9日 9時30分～15時30分

会場：青森県男女共同参画センター（アピオあおもり）

来場者：86名

3. 意識啓発・情報発信など

○男女共同参画トップセミナー（男女共同参画推進室10周年記念シンポジウム）

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の一環として、管理職を対象に女性教員の採用・昇任等をはじめとするダイバーシティ研究環境推進に関する意識啓発を図る目的から、セミナーを開催した。本年度は、男女共同参画推進室10周年と弘前市の男女共同参画推進20周年に当たる年であったことから、弘前市と連携し、記念シンポジウム「男女共同参画推進、そしてその先」として実施した。

前半は内閣府地域働き方改革支援チーム委員（兼務東レ経営研究所）の渥美由喜先生から特別講演「大学においてダイバーシティを推進する意義と具体的方策」をいただき、後半は藤崎室長が聞き手となり、シンポジウムタイトルをテーマに佐藤敬 学長と櫻田宏 弘前市長による対談が行われた。

参加者アンケート（回答者130名）では、88名が「とても有意義だった」、34名が「有意義だった」、2名が「思った内容と違った」（ほか6名が無記入）と評価した。自由記述には「講演の内容がとてもわかりやすく参考になりました。対談についても、自分の意識を変え行動し組織の一員として考えていきたい」「渥美さんの講演について、もう少し時間をかけてゆっくりと聞きたかった」「何事も環境づくりが大切であることを改めて認識することができました」「社会に進出したときに男女共同参画が整っていたら良いと感じました」等の感想があった。

日 時：令和元年12月19日 13時30分～15時40分

会 場：弘前大学創立50周年記念会館 みちのくホール

参加者：147名



○北東北国立3大学連携推進会議連携協議会男女共同参画シンポジウム

「今あらためて女性研究者支援から多様な人材が活かされる大学へ」

平成22年から本学、秋田大学、岩手大学が毎年持ち回りで北東北国立3大学連携推進会議連携協議会男女共同参画シンポジウムを開催してきた。平成31/令和元年度は岩手大学主催で「今あらためて女性研究者支援から多様な人材が活かされる大学へ」をテーマに行われ、前半の基調講演では横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院の江原由美子先生から、ダイバーシティ・マネジメントの展開や日本の大学における現状と課題等についてお話があった。

後半は、本学、秋田大学、岩手大学から、各大学の取組について報告があり、本学については藤崎室長が発表した。続くパネルディスカッションでは、3大学の担当理事がパネリストとして登壇し、ダイバーシティ推進において大学が果たす役割や今後の展望等について意見交換が行われた。本学からは9名が参加した。

本シンポジウムに先立って、8月には3大学の男女共同参画推進室長による「北東北国立大学連携男女共同参画連絡会議」が岩手大学で開かれた。

日 時：令和元年9月26日 14時40分～16時15分

会 場：岩手大学農学部総合教育棟 ぼらんホール

○さんかくカフェ

平成25年度から、性別にかかわらず働きやすく学びやすい弘前大学の実現を目指して、男女共同参画推進に関心のある職員や学生が意見・情報交換を行う場を提供するとともに、参加者同士のネットワークの構築支援を目的として「さんかくカフェ」を開催してきた。平成31/令和元年度は、下記のとおり開催した。参加者アンケートでは、第1回（回答者10名）、第2回（回答者9名）について、無回答を除いて全ての回答者が「大変有意義だった」「やや有意義だった」と評価した。「LGBT、ジェンダーについて有意義な意見交換ができました」「病院の方々の勤務実態を知ることができ大変勉強になりました。斉藤先生のライフスタイルからも得るものが多かったです」等の感想があった。



第1回「男性の育児・介護」

日 時：令和元年6月27日 12時5分～13時35分

会 場：図書館 会議室

話題提供者：山下梓室員（男女共同参画推進室助教）

参加者：13名

第2回「女性医師・教職員が弘前大学で働く上で感じるハードル」

日 時：令和元年7月30日 17時35分～19時

会 場：医学部附属病院 女性医師支援施設多目的室

話題提供者：斉藤まなぶ室員（医学研究科准教授）

参加者：12名

○学生を対象とした意識啓発

「ジェンダー・ダイバーシティ視点を踏まえたキャリアデザインワークショップ」

本学の学生が、就職活動や就職後のキャリアデザインに関する期待や不安などについて、男女共同参画やダイバーシティの視点を踏まえて気軽に話し合うことのできる場を提供することを目的として、ワークショップを開催した。

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）連携機関のひとつである株式会社ミクニの秦彩花さん（コーポレート本部人事総務室）と佐々木寛規さん（開発本部機能要素コンポーネント技術部）をゲストに迎え、2グループに分かれて情報・意見



交換が行われた。

参加した学生からは「授業での話をもとにより詳しく話を聞くことができて良かった」「就職や進学について心配なことが多かったが、話を聞いてもらってとても楽になった。インターンシップに参加してみたい」との感想があった。

日 時：令和元年12月13日 16時～16時50分

会 場：弘前大学総合教育棟 キャリアセンターセミナー室

参加者：2名

○次世代育成サポーター養成講座への学生派遣

本学の学生への男女共同参画・キャリア形成支援教育・学修機会の充実を図ることを目的として、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）代表機関の岩手大学で開講された「次世代育成サポーター養成講座」に、参加を希望した教育学部の学生2名（参加希望者公募時の応募者は6名）を派遣した。当該学生は、事前にDVD学習を行った上で、当日は、岩手大学の学生とともに、乳幼児の発達・心理・食育・地域の子育て支援等の子どもと楽しくかかわるために必要な知識やスキルを学んだ。後日レポートを提出して受講を完了した後、男女共同参画推進室において、藤崎室長から受講完了証が授与された。



日にち：令和元年9月28日

会 場：岩手大学学生センター A棟G4-D講義室

参加者：2名

○「大学等における男女共同参画推進セミナー」等への職員派遣

ダイバーシティ研究環境推進や男女共同参画推進のため職員の意識啓発や最新の取組動向に関する情報収集を目的として、男女共同参画推進室員を学外でのシンポジウムや研修等に派遣した。派遣された室員は、男女共同参画推進委員会において参加報告を行い、学内における情報共有と男女共同参画推進のいっそうの意識啓発を図った。

派遣先：2019年度大学等における男女共同参画推進セミナー「女性研究者支援から広げる大学等の男女共同参画」（国立女性教育会館主催、令和元年12月20日・主婦会館プラザエフで開催）

参加者：北宮千秋副室長（保健学研究科教授）

報 告：男女共同参画推進委員会（令和2年1月31日開催）

派遣予定先：第17回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

(男女共同参画学協会連絡会主催、令和元年10月12日・お茶の水女子大学で開催予定
(台風19号により中止))

参加予定者：銭谷勉室員（理工学研究科教授）

○あおもり女性活躍推進協議会

青森県では、平成29年から女性活躍推進法に基づき、青森県庁が中心となり「あおもり女性活躍推進協議会」が設置されている。本協議会の目的は、「働く意欲のある女性が働き続け、その能力を十分に発揮できる環境整備を関係団体が連携・協力して進める」ことである。

平成31/令和元年度は、協議会には藤崎室長が、幹事会（協議会の円滑な運営や目的達成に向けた具体的な検討を行うため構成団体の実務担当者等で構成されるもの）には山下室員が委員として参加し、大学の男女共同参画推進の取組に関する情報発信や他の構成機関との情報・意見交換を行った。

○弘前市女性活躍推進異業種交流会

平成28年度から政府の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、弘前市と損保ジャパン日本興亜株式会社が連携・協力し、女性活躍推進を目的として設立された異業種交流会事業「hirosaki smart project」に引き続き参加した。具体的には、次のとおり開催された交流会に、弘前大学として事務系女性職員2名を派遣した。

8月には、平成30年度に派遣された職員3名が「事務系職員研修報告会」において参加報告を行った。

第1回

日 時：令和元年7月10日 17時30分～19時30分

会 場：ヒロロ 市民文化交流館ホール

テーマ：文房具から始められる働き方改革

第2回

日 時：令和元年10月2日 17時30分～19時30分

会 場：ヒロロ 市民文化交流館ホール

テーマ：知っていますか？自分のからだと健康づくり

第3回

日 時：令和元年11月20日 17時30分～19時30分

会 場：ヒロロ 市民文化交流館ホール

テーマ：防災対策～災害への備え～

第4回

日 時：令和2年2月19日 17時30分～19時30分

会 場：ヒロロ 市民文化交流館ホール

テーマ：あなた、野菜足りていますか？～野菜の良さと食べ方について～

参加した職員の感想

異業種交流会「hirosaki smart project」に参加させていただきました。各回のテーマが、文房具、健康づくり、防災、野菜摂取と大変多様であったことが印象的でした。女性活躍推進の取組は、キャリア

意識醸成や働きやすい職場づくりなどといった女性特有の課題にとどまらず、より実践的で日常に根差した内容へ移行しているのだと認識を新たにしました。仕事に子育てにと充実した日々を送られている参加者の皆様と意見交換ができ、刺激を受けるとともに、大学の外にもロールモデルとなる方がたくさんいらっしゃることを知る貴重な機会となりました。(総務部人事課職員グループ 中沼由佳子さん)

弘前市女性活躍推進異業種交流会に参加させていただきました。交流会は全4回あり、毎回異なる講師の方がそれぞれ別のテーマでご講演くださり、自身の見識を広げることに役立ちました。また、講演途中や講演後には参加者が小さなグループに分かれ、講演内容に関連したグループディスカッションを行いました。ディスカッションを行うことで、それぞれの職場や家庭での実例を聞くことができ、講演に対する理解や交流を深めることができました。(人文社会科学部総務グループ 福土佳奈子さん)

○ホームページ、男女共同参画推進室ニュースレター

学内外への情報発信とそれを通じた男女共同参画推進の意識啓発を図る目的から、平成31/令和元年度も随時男女共同参画推進室ホームページを更新するとともに、室10周年を記念してデザインを一新して男女共同参画推進室ニュースレター「さんかくつうしん」を9月と3月に発行した。「さんかくつうしん」は、本学の全職員に配付した。

さんかくつうしん Vol.21
2019年9月発行
Newsleter
弘前大学男女共同参画推進室

「佐藤学長が「働く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」を発起し、行進宣言に賛同しました」

佐藤学長が9月、国際的な女性活躍に関する意識を高める男性リーダーの会「行動宣言」に賛同し、この宣言は、平成29年9月に開催された東京女子大学で発表された。佐藤学長は、この宣言に賛同し、働く女性の活躍を加速する男性リーダーの会として、北進、東進の大学として、佐藤学長の賛同は、北進、東進の大学として、

「弘前市女性活躍推進室」に認定されました

弘前市は5月、「弘前市女性活躍推進室」に認定されました。この認定は、女性の活躍を促進するための施策を推進するための認定です。弘前市の認定は、

ダイバーシティレポート制度の本格運用が決定されました

7月の学務部人事委員会において、ダイバーシティレポート制度の運用が決定されました。この制度は、弘前市における女性の活躍を促進するための施策を推進するための認定です。弘前市の認定は、

共同研究支援課題5件を採択しました

共同研究支援課題	採択者	共同研究支援課題	採択者
共同研究支援課題1	弘前大学	共同研究支援課題4	弘前大学
共同研究支援課題2	弘前大学	共同研究支援課題5	弘前大学
共同研究支援課題3	弘前大学		

さんかくつうしん Vol.22
2020年3月発行
弘前大学男女共同参画推進室
Newsleter

男女共同参画推進室10周年記念シンポジウムを開催しました

昨年12月19日、創立10周年記念事業の一環として、弘前大学男女共同参画推進室10周年記念シンポジウムを開催しました。このシンポジウムは、男女共同参画推進室10周年を記念して開催されました。シンポジウムの趣旨は、男女共同参画推進室10周年を記念して開催されました。シンポジウムの趣旨は、男女共同参画推進室10周年を記念して開催されました。

女性研究者懇話会を開催しました

2月26日、女性研究者懇話会を開催しました。この懇話会は、女性研究者の活躍を促進するための施策を推進するための認定です。弘前市の認定は、

ぜひご利用ください

利用料補助	女性研究者を研究代表とする共同研究支援	リワーク支援(新制)
目的: 弘前大学のワーク・ライフ・バランスを推進するための施策を推進するための認定です。弘前市の認定は、	目的: 女性研究者の活躍を促進するための施策を推進するための認定です。弘前市の認定は、	目的: 女性研究者の活躍を促進するための施策を推進するための認定です。弘前市の認定は、
内容: 弘前大学のワーク・ライフ・バランスを推進するための施策を推進するための認定です。弘前市の認定は、	内容: 女性研究者の活躍を促進するための施策を推進するための認定です。弘前市の認定は、	内容: 女性研究者の活躍を促進するための施策を推進するための認定です。弘前市の認定は、
対象: 弘前大学の職員(正規・非常勤)に限定して実施する予定です。	対象: 弘前大学の女性研究者(准教授以下)に限定して実施する予定です。	対象: 弘前大学の女性研究者(准教授以下)に限定して実施する予定です。

○男女共同参画推進室10周年記念フォトキャンペーン、ニュースレター特別号

男女共同参画推進室10周年にあたり、記念シンポジウム（詳しくは「男女共同参画トップセミナー」のページ参照）に加えて、Twitterアカウントを新たに取得しフォトキャンペーン「私の男女共同参画宣言/My Gender Equality Statement」を展開するとともに、記念シンポジウムの開催にあわせて男女共同参画推進室ニュースレター「さんかくつうしん」特別号を発行した。

フォトキャンペーン「私の男女共同参画宣言/My Gender Equality Statement」は、10月～3月の半年間展開され、佐藤学長や石川理事、藤崎室長を含む弘前大学の教職員や学生約50名が参加した。

さんかくつうしん 特別号
Newsleter
弘前大学男女共同参画推進室
2019年12月発行

10周年のその先へ
2009年10月1日に男女共同参画推進室が開設し、10周年を迎えました。この10周年を弘前大学における女性の比率の増加から47%へ、女性教員比率は12.1%から19.3%へと増し、ワークライフバランスの実現や女性の進出も少なからず進歩しました。しかし、男女共同参画の達成度や進歩の速さには違いがあります。各部署の現状と4代目を

目指した際の男性比率として、この10周年の歩みを踏まえ、「達成」の次で「不足」な部分を弘前大学の発展に向け、努力したいと考えています。皆様、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。
男女共同参画推進室 慶学生命科学研究部 藤崎 浩希

データでみる弘前大学男女共同参画推進の10年
10周年記念シンポジウム（特別号）開催時、女性教員比率（課長級以上）、女子学生比率（専攻・専修生）の増加状況をグラフに表しました。（数値は発表より1日遅延。弘前大学男女共同参画推進室の発表状況に関する詳細は「この間も」をご覧ください。）

女性役員（学長・理事）
2009-2015
6人中0人
2016-2019
6人中1人

女性教員
2009-2019

女性事務系管理職（課長相当職以上）
2009-2019

女子学生（専攻・専修生）
2009-2019



資料1 平成31/令和元年度 男女共同参画推進室 主な事業一覧

月	事業内容	会議等
4月	1日 平成31/令和元年度女性教員採用促進事業（女性教員基盤整備等スタートアップ経費支援）開始 病児・病後児及び休日勤務時の託児利用料補助申請受付開始	3日 平成31/令和元年度第1回男女共同参画推進委員会（以下、委員会） 25日 男女共同参画推進室運営会議（以下、運営会議）
	10日 学会参加時の託児利用料補助申請受付開始	
5月	15日 子育て・介護中の研究者への研究支援員配置開始	8日 第2回委員会
	21日 弘前市女性活躍推進企業認定	30日 運営会議
6月	27日 令和元年度第1回「さんかくカフェ」開催	5日 第3回委員会 24日 第11回北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議運営委員会 14日 令和元年度第1回あおもり女性活躍推進協議会・幹事会 27日 運営会議
	10日 令和元年度第1回女性活躍推進異業種交流会	3日 第4回委員会
	18日 令和元年度女性研究者を研究代表者とする共同研究支援事業開始	25日 運営会議
	20日 女子小学生対象理科実験教室（共催事業）開催 30日 令和元年度第2回「さんかくカフェ」開催	
8月	佐藤学長「『輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会』行動宣言」賛同	7日 第5回委員会
	8日 女子学生による理系女子進路相談会開催	8日 令和元年度北東北大学連携男女共同参画推進連絡会議
9月	1日 Let's be a STEM Girl!!（協力事業）開催	25日 運営会議
	25日 「さんかくつうしん」Vol.21発行	
	26日 北東北女性研究者研究・交流フェア 北東北国立3大学男女共同参画シンポジウム	
	28日 次世代育成サポーター養成講座への学生派遣	
10月	1日 10周年フォトキャンペーン開始	4日 第6回委員会
	2日 第2回女性活躍推進異業種交流会	
	26～27日 弘前大学総合文化祭での女性研究者パネル展実施	
11月	9日 アピオあおもり秋まつりでの女性研究者パネル展実施	18日 第2回あおもり女性活躍推進協議会幹事会 21日 運営会議
	20日 第3回女性活躍推進異業種交流会	29日 第7回委員会
12月	9日 令和元年度プロモーションメンター制度（試行）開始	
	13日 学生対象キャリアデザインワークショップ	
	18日 「さんかくつうしん」特別号発行	
	19日 男女共同参画トップセミナー（10周年記念シンポジウム）開催	
	20日 2019年度大学等における男女共同参画推進セミナーへの室員派遣	
	21～22日 「女子高生工学系キャリアサポート」（協賛事業）開催	

1月		23日 運営会議 31日 第8回委員会
2月	19日 第4回女性活躍推進異業種交流会 26日 女性研究者懇談会	5日 第12回北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議運営委員会 17日 運営会議 28日 第9回委員会
3月	「さんかくつうしん」Vol.22発行	19日 運営会議 24日 第10回委員会

資料2 平成21年度～平成31/令和元年度 主な取組一覧

H20	男女共同参画推進室準備室設置 ひろだい保育園開園	
H21	弘前大学男女共同参画推進宣言 男女共同参画推進室設置 弘前大学男女共同参画推進基本計画(第1期)	
H22	女性研究者研究活動支援事業採択 次世代育成支援対策行動計画(第1期) 北東北国立3大学男女共同参画推進連絡会議発足 「北東北地域における男女共同参画推進に向けて 岩手宣言」	
H23	「北東北地域における男女共同参画推進に向けて 秋田宣言」	
H24	弘前大学男女共同参画推進宣言(学長宣言) 「弘前宣言～北東北3大学連携による男女共同参画推進に向けて～」	
H27	「北東北国立3大学 男女共同参画推進のための共同宣言2015」	
H28	弘前大学男女共同参画推進基本計画(第2期) ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)採択 次世代育成支援対策行動計画(第2期) 女性活躍推進法に基づく事業主行動計画(第1期)	
H31/R1	次世代育成支援対策行動計画(第3期)	

※役員、教員、事務系管理職、学生に占める女性比率の10年間のデータは、さんかくつうしん特別号(p.19に縮小版を掲載)でご紹介しています。

資料2 平成21年度～平成31/令和元年度 主な取組一覧

	事業内容	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31/元年度
1	子育て・介護にかかるとる休暇・休業制度拡充									実施		
2	教員業績評価における出産・育児・介護に係る休業への配慮							提案 制度改正	実施			
3	女性教職員休養室						設置				廃止	
4	女性医師支援施設						設置					
5	学会託児支援（弘前大学で開催時）		実施									
6	託児利用料補助						セミナー試験時、学会参加時託児費用補助		病児・病後児保育料補助 助試行		休日勤務時 託児利用料 補助、病児 病後児保育	
7	子育て・介護中の研究者に対する研究支援員配置				実施							
8	全学意識調査		実施					実施				
9	その他の各種調査		女性教員比率局長アンケート	女性教員比率 率部局アンケート								
10	子育て中の職員対象 駐車許可証拡充発行											
11	WLB/キャリア相談								実施			
12	あおもり女性の活躍応援企業登録								登録	制度廃止		
13	弘前市女性活躍推進企業認定											認定
14	論文投稿費・英文校閲費助成		実施									
15	女性研究代表者共同研究支援								実施			
16	パートナーフェロー制度		試行									
17	特任教員・理系女性フェロー制度		実施									
18	女性研究者の研究力向上支援セミナー			実施					実施			
19	女性限定公募								実施			
20	女性優先公募全学統一記載								実施			
21	節局長ヒアリング									実施		
22	ダイバーシティレポート制度											本格導入
23	基盤整備等スタートアップ経費支援									実施		拡充
24	女性候補者面接時交通費支援											
25	プロモーションメンター制度							試行	本格導入			
26	女性研究者ロールモデル提示（権事での研究パネル展）				実施				先行例調査			
27	理系女子会											
28	学生サイエンスサポーター育成		実施									
29	児童生徒を対象とした裾野拡大											
30	女性管理職交流会											
31	事務系女性職員対象キャリアデザイン研修											
32	弘前市女性活躍推進員種交流会									参加		
33	講演会・シンポジウム・セミナー		実施									
34	NWEC研修・男女共同参画学協会連絡会シンポジウム等への教職員派遣								実施			
35	教職員・学生男女比率等調査・公表		実施									
36	女性研究者フォーラム		実施									
37	さんかくカフェ									実施		
38	子育て・介護に関する休暇・休業学内制度リフレット											
39	学生を対象とした男女共同参画の意識啓発											
40	さんかくつうしん		発行									
41	ウェブсайт		開設									
42	教職員のための制度・手続情報ナビ											
43	Twitter											開設
44	年度事業報告書		発行									
45	男女共同参画関連講義（キャリア科目）											
46	北東北国立3大学男女共同参画シンポジウム											
47	北東北女性研究者研究・交流フェア											
48	次世代育成サポーター養成講座への学生派遣											
49	青森県男女共同参画センター図書パッケージ貸出し											
50	弘前大学男女共同参画推進基金											
51	男女共同参画推進委員会		開催									
52	北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議・運営委員会											
53	あおもりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク											
54	あおもり女性活躍推進協議会・幹事会											
55	産業総合研究所ダイバーシティ・サポートオフィス											

資料3 平成21年度～平成31/令和元年度 室長・室員等一覧

室長

H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1
杉山祐子	杉山祐子 (人文・2号※)	杉山祐子	日景弥生 (教育・2号)	日景弥生	日景弥生	日景弥生	日景弥生	日景弥生	安川あけみ (教育・1号)	安川あけみ (農生・2号) (6/1～)
										藤崎浩幸 (農生・1号) (～5/31)

副室長

H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1
高瀬雅弘	日景弥生 (教育・2号)	日景弥生	杉山祐子 (人文・2号)	田中和明 (農生・3号)	小磯重隆 (就支・3号)	小磯重隆 (就支・3号)	小磯重隆 (キャリア・3号)	藤崎浩幸 (農生・1号)	藤崎浩幸 (農生・1号)	藤崎浩幸 (農生・1号) (～5/31)
	高瀬雅弘 (教育・1号)	高瀬雅弘	井瀧千恵子 (保健・1号)					三浦新 (総務・2号)	三浦新 (総務・2号)	北宮千秋 (保健・1号) (6/1～)
										三浦新 (総務・2号)

室員(室長・副室長以外の室員)

H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1
松岡昌江 (総務)	松岡昌江 (総務・2号)	松岡昌江 (総務・2号)	松岡昌江 (総務・2号)	庄司聡 (総務・2号)	庄司聡 (総務・2号)	飯田有知子 (総務・2号)	飯田有知子 (総務・2号)	庄司聡 (総務・2号)	庄司聡 (総務・2号)	庄司聡 (総務・2号)
山田蔽子 (人文)	山田蔽子 (人文・2号)	照井徹 (人文・1号)	照井徹 (人文・1号)	加藤勇樹 (総務・2号)	工藤公樹 (総務・2号)	工藤公樹 (総務・2号)	長谷川公栄 (総務・2号)	土井正人 (学務・2号)	橋本美佐子 (学務・2号)	橋本美佐子 (学務・2号) (～11/24)
長谷河亜希子 (人文)	長谷河亜希子 (人文・3号)	長谷河亜希子 (人文・3号)	吉村顕真 (人文・3号)	吉村顕真 (人文・3号)	土井雅之 (人文・3号)	土井雅之 (人文・3号)	土井雅之 (人文・3号)	土井雅之 (人文・3号)	大倉邦夫 (人文・3号)	大倉邦夫 (人文・3号)
飯田有知子 (人文)	鈴木登紀子 (人文・1号)	土岐祐子 (医学・3号)	土岐祐子 (医学・3号)	堀智弘 (人文・1号)	堀智弘 (人文・1号)	栗原由紀子 (人文・1号)	栗原由紀子 (人文・1号)	近藤史 (人文・1号)	近藤史 (人文・1号)	亀谷学 (人文・1号)
日景弥生 (教育・2号)	栗林航 (教育・3号)	栗林航 (教育・3号)	高瀬雅弘 (教育・1号)	松本大 (教育・1号)	松本大 (教育・1号)	松本大 (教育・3号)	松本大 (教育・3号)	松本大 (教育・3号)	松本大 (教育・3号)	松本大 (教育・3号)

山田順子 (医学)	山田順子 (医学・1号)	山田順子 (医学・1号)	山田順子 (医学・1号)	丹治邦和 (医学・1号)	丹治邦和 (医学・1号)	丹治邦和 (医学・1号)	丹治邦和 (医学・1号)	柿崎育子 (医学・1号)	柿崎育子 (医学・1号)	浅野クリスナ (医学・1号)
井瀧千恵子 (保健)	井瀧千恵子 (保健・1号)	井瀧千恵子 (保健・1号)	李秀眞 (教育・3号)	李秀眞 (教育・3号)	李秀眞 (教育・3号)	李秀眞 (教育・3号)	李秀眞 (教育・3号)	斉藤まなぶ (病院・3号)	斉藤まなぶ (病院・3号)	斉藤まなぶ (病院・3号)
岩谷靖 (理工)	岩谷靖 (理工・3号)	岩谷靖 (理工・3号)	岩谷靖 (理工・3号)	鳥飼宏之 (理工・1号)	鳥飼宏之 (理工・1号)	鳥飼宏之 (理工・1号)	鳥飼宏之 (理工・1号)	銭谷勉 (理工・1号)	銭谷勉 (理工・1号)	銭谷勉 (理工・1号)
藤寄里美 (理工)	藤寄里美 (理工・1号)	藤寄里美 (理工・1号)	藤寄里美 (理工・1号)	出佳奈子 (教育・1号)	出佳奈子 (教育・1号)	出佳奈子 (教育・1号)	出佳奈子 (教育・1号)	日景弥生 (教育・2号)	日景弥生 (教育・2号)	新谷ますみ (教育・1号)
大河浩 (農生)	大河浩 (農生・3号)	大河浩 (農生・3号)	田中和明 (農生・3号)	三崎直子 (保健・1号)	三崎直子 (保健・1号)	三崎直子 (保健・1号)	三崎直子 (保健・1号)	北宮千秋 (保健・1号)	北宮千秋 (保健・1号)	堀江香代 (保健・3号)
成田和香 (農生)	及川望美 (農生・1号)	及川望美 (農生・1号)	及川望美 (農生・1号)	山形浩貴 (財務・2号)	山形浩貴 (財務・2号)	山形浩貴 (財務・2号)	山形浩貴 (財務・2号)	三上徹 (研推・2号)	三上徹 (研推・2号)	佐々木健一 (研推・2号)
齊藤慶子 (病院)	齊藤慶子 (病院・3号)	齊藤慶子 (病院・1号)	藤田祥子 (病院・1号)	長尾麻紀子 (病院・1号)	長尾麻紀子 (病院・1号)	長尾麻紀子 (病院・1号)	長尾麻紀子 (病院・1号)	小島佳也 (病院・1号)	小島佳也 (病院・1号)	金澤佐知子 (病院・1号)
	深作拓郎 (生涯・3号)	深作拓郎 (生涯・3号)		藤川安仁 (理工・3号)	藤川安仁 (理工・3号)	藤川安仁 (理工・3号)	谷田貝亜紀代 (理工・3号)	成田明子 (理工・3号)	成田明子 (理工・3号)	成田明子 (理工・3号)
	中村聡子 (医学・3号)			坂元君年 (農生・3号)	坂元君年 (農生・3号)	坂元君年 (農生・3号)	坂元君年 (農生・3号)	笹部美知子 (農生・3号)	笹部美知子 (農生・3号)	笹部美知子 (農生・3号)
				張樹槐 (農生・1号)	張樹槐 (農生・1号)	張樹槐 (農生・1号)	張樹槐 (農生・1号)	七島直樹 (保健・3号)	七島直樹 (保健・3号)	七島直樹 (保健・3号)
				小島佳也 (病院・3号)	小島佳也 (病院・3号)	小島佳也 (病院・3号)	山下梓 (男女・2号)	藤井穂高 (医学・3号)	藤井穂高 (医学・3号)	藤井穂高 (医学・3号)
								山下梓 (男女・2号)	山下梓 (男女・2号)	中島晶 (農生・1号) (6/1~)
										飯田有知子 (学務・2号) (11/25~)
										山下梓 (男女・2号)

協力教員

H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1
	澤田真一 (人文)	澤田真一 (人文)	澤田真一 (人文)							
	今田匡彦 (教育)	今田匡彦 (教育)	今田匡彦 (教育)							
	浅野クリスナ	浅野クリスナ	浅野クリスナ							

(医学)	(医学)	(医学)
板垣史郎 (病院)	板垣史郎 (病院)	板垣史郎 (病院)
江居宏美 (理工)	江居宏美 (理工)	江居宏美 (理工)
柏木明子 (農生)	柏木明子 (農生)	柏木明子 (農生)

事務職員・専任スタッフ

H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1
	佐々木美津子	北村正太郎	笹森守	山田修平	山田修平	小田桐努	小山宏	小山宏	小山宏	三上盛一
	藤田悦子	藤田悦子	藤田悦子	木村洋	木村洋	小野賢	小田桐努	小田桐努	齊藤明久	齊藤明久
	鶴井香織 (特任助教)	鶴井香織 (特任助教)	鶴井香織 (特任助教)	中川繭 (特任助教)	中川繭 (特任助教)	成田和香	金沢伸也	金沢伸也	長谷川直生	長谷川直生
	赤嶺真由美 (特任助手)	赤嶺真由美 (特任助手)	赤嶺真由美 (特任助手)	工藤昭子 (事務補佐員)	赤平孝子 (事務補佐員)	松永久美	小野賢	小野賢	金沢伸也	金沢伸也
	山本幸子 (コर्टイネーター)	山本幸子 (コर्टイネーター)	西野純子 (特任助手)	岩間知美 (事務補佐員)	山岡志保 (事務補佐員)	山下梓 (助教)	星晃治	星晃治	小野賢	小野賢
	篠崎有香 (コर्टイネーター)	篠崎有香 (コर्टイネーター)	山本幸子 (コर्टイネーター)			赤平孝子 (事務補佐員)	山下梓 (助教)	山下梓 (助教)	花田昌吾	花田昌吾
	葛西薫	葛西薫	篠崎有香 (コर्टイネーター)			山岡志保 (事務補佐員)	赤平孝子 (事務補佐員)	赤平孝子 (事務補佐員)	山下梓 (助教)	山下梓 (助教)
	村上敬子	村上敬子	葛西薫			山岡志保 (事務補佐員)	山岡志保 (事務補佐員)	山岡志保 (事務補佐員)	赤平孝子 (事務補佐員)	土田葉子 (事務補佐員)
			村上敬子						山岡志保 (事務補佐員)	山岡志保 (事務補佐員)
									土田葉子 (事務補佐員)	土田葉子 (事務補佐員)
									(1/1~)	(~1/1)

※弘前大学管理運営規則第 110 条 2 に基づき、各部署の推薦による者(1 号室員)、学長が任命する者(2 号室員)、室長が必要と認められた者(3 号室員)

平成31/令和元年度
弘前大学男女共同参画推進室
事業報告書

発行 令和2年3月31日

発行所 弘前大学男女共同参画推進室

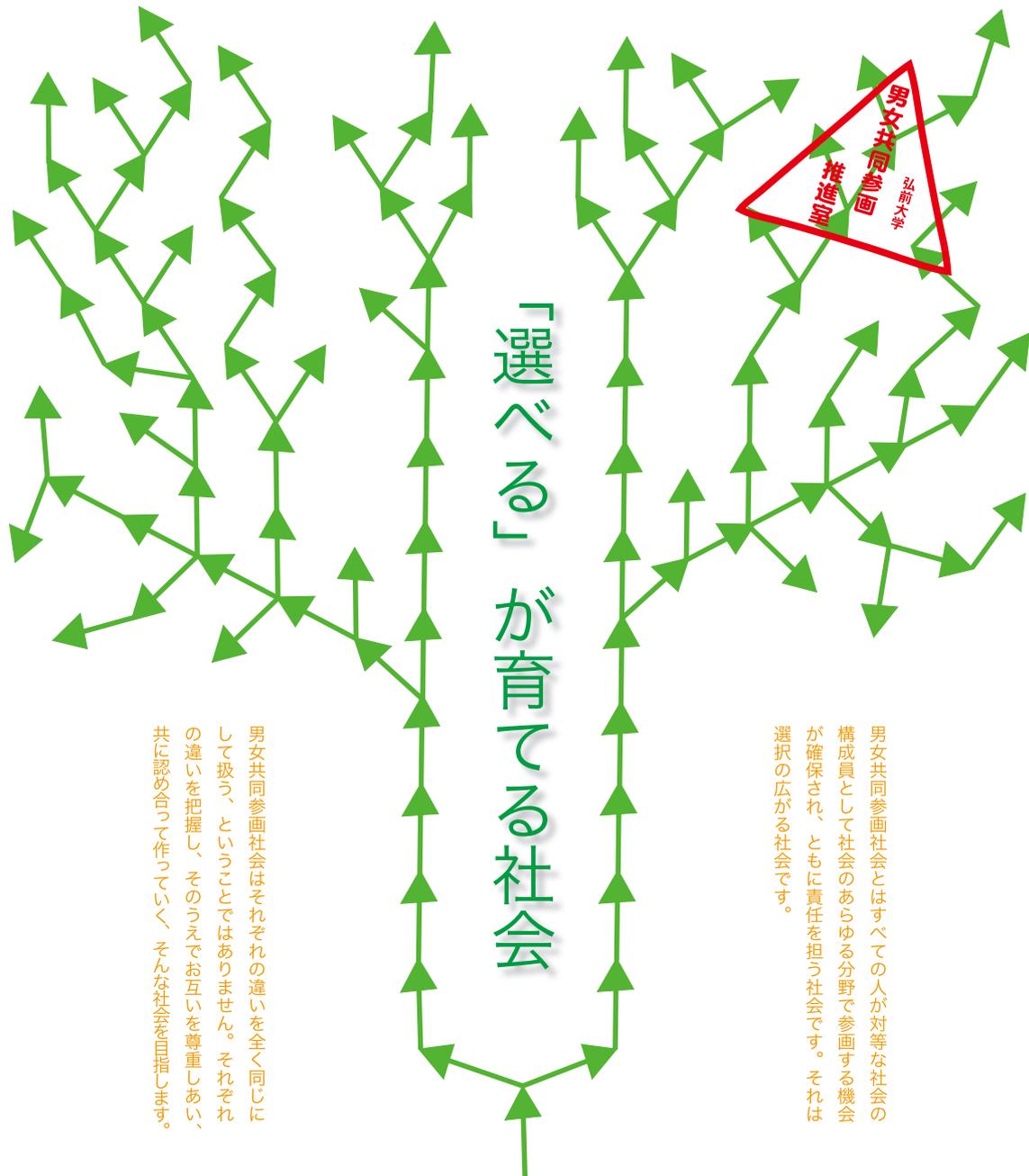
〒036-8560 青森県弘前市文京町 1

電話 0172(39)3888

FAX 0172(39)3889

Email : equality@hirosaki-u.ac.jp

URL : <http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/>



「選べる」が育てる社会

男女共同参画社会とはすべての人が対等な社会の構成員として社会のあらゆる分野で参画する機会が確保され、ともに責任を担う社会です。それは選択の広がる社会です。

男女共同参画社会はそれぞれの違いを全く同じにして扱う、ということではありません。それぞれの違いを把握し、そのうえでお互いを尊重しあい、共に認め合って作っていく、そんな社会を目指します。

弘前大学男女共同参画推進室

〒036-8560 青森県弘前市文京町1
電話 0172 (39) 3888 FAX 0172 (39) 3889
Email: equality@hirosaki-u.ac.jp
URL: <http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/>